

四日市市立山手中学校 3年 中森 神楽「未来の三重県民に伝えたいこと」

私には未来の三重県民に伝えたいこと、残していきたいものがある。それは三重県特有の温かさだ。

私は中学三年生、受験生になったばかりのとき、行きはじめたばかりの塾の帰り道が暗く、怖いと感じていた。季節が夏からが夏から冬に移り変わり、日が落ちる時が早まることで帰る時間にはよりまっくらになった。そんなある日の帰り道、急ぎ足で帰る私の目にイルミネーションでライトアップされた公園が映った。家に帰り母に聞いてみると「子供会の会長が暗い道を帰る受験生の応援と安全のためにつけてくれた。」とのことだった。この事実私に私の心は明るく、そして温かくなった。

このような温かさが県内のそれぞれの地域であふれているのは三重県の伝統的な地域行事、地域交流にあるのだと私は考える。三重県では季節ごとに祭りや地域行事が盛んに行われており、その分住民どうしの交流も盛んだ。祭りや行事とは一人で作るものではなくみんなでつくり、うけついでいくもの。その中にはきっと私が公園でみかけたあの温かさも含まれている。私はこの先の未来の三重県にも絶えずこの温かさをつないでいってほしい。そしてつないでいきたい。

だから私は未来の三重県民に伝えたいことは、たくさんの伝統とともに受け継がれてきた温かさが、思いがあるということ。そして、次はあなたがつなげていく番だということ伝えたい。その先にはきっと私の生まれ育った三重県の、そこで育まれた人々の姿があることを心から願っているからだ。